



第30回全国都市緑化とっとりフェア（お花畑会場） 「水と緑のオアシスとっとり2013」

株式会社空間創研 後藤逸成・荘田隆久・泉 崇・福田祥子・駒井 修・宇戸睦雄
Code-L 山本 哲

□はじめに

30回目となる全国都市緑化フェアは、ともに育てる身近な緑～水と緑につつまれた世界ジオパークのまちから～をテーマに日本一の湖沼である湖山池のほとりにある鳥取市の湖山池公園をメイン会場として、平成24年9月21日から同年11月10日までの51日間にわたり開催された。

□ととりの風土・文化を活かしたフェアの実現

会場内では、水と緑あふれる鳥取の風土の特徴やジオパークの風景、鳥取の自然素材を活かし、花の彩りによる空間づくりにとどまらず、湖山池の雄大なスケールに馴染む、自然かつ印象的な風景の創出や、鳥取の地域資源である砂の文化（砂像）を取り入れた鳥取の新たな魅力発信に寄与する見所づくりを行った。また、自然と共に歩む県民・市民の力を集結した協働による緑化の推進を行うことで、鳥取らしい魅力あふれるまちを育む契機となるフェアの展開を図った。

□テーマ性のあるゾーン展開

湖山池に沿って、東西に長い形状をしたメイン会場

は5つのゾーン分けを行った。それぞれのゾーンの中を多彩な魅力をもつ2つのメインガーデンと3つのコンセプトガーデン、会場の随所を彩る9つのコンセプトボーダー、そして鳥取の「人財」による「緑」で構成した。まず来場者を出迎えるのは、賑やかで活気溢れるエントランス空間、「出会いの広場ゾーン」。このゾーンでは、砂像アーティストの茶園勝彦氏と共に創りあげた砂像と草花が融合した「エントランスガーデン」と、鳥取県一の滝「雨滝」と「横尾の棚田」をモチーフとし、鳥取の緑豊かな山々、里の景観を表現した「ウェルカムガーデン」の2つのコンセプトガーデンを中心に鳥取の風土・文化によるもてなしの空間とした。次に「鳥取の新たな緑」のカタチを伝えるメインガーデンであるナチュラルガーデン（ポール・スミザー氏監修）を核とした「ナチュラルガーデンゾーン」へと続く。ここでは、鳥取の風土の中で鳥取の身近な野山の草花の美しさや植物の持つ魅力、植物本来の姿と郷土の原風景を表現した、何度訪れても飽きることのない心地よい風景が展開する。



「砂像と植物が融合する」鳥取らしさが溢れる大地の庭

作品概要

作品名：第30回全国都市緑化とっとりフェア（お花畑会場）
 所在地：鳥取県鳥取市湖山町（湖山池公園お花畑ゾーン）
 発注：【基本計画】鳥取市
 【基本設計・実施設計・監理】第30回全国都市緑化とっとりフェア実行委員会
 設計：【基本計画・基本設計・実施設計】株式会社空間創研
 設計協力：【基本計画協力】：Code-L・アクティオ株式会社・黒羽事務所
 【基本設計協力】：Code-L・アサヒコンサルタント株式会社
 【アドバイザー】：有限会社ガーデンルームス・砂の美術館
 監理：株式会社空間創研
 【協力】：Code-L・有限会社ガーデンルームス・砂の美術館
 施工：鳥取県造園建設業協会
 設計期間：【基本計画】平成23年3月～平成23年8月
 【基本設計】平成23年12月～平成24年4月
 【実施設計】平成24年5月～平成25年3月
 施工期間：平成25年4月～平成25年9月
 規模：10.0 ha
 主要施設：主催者による展示庭園・市民による「もてなし」ガーデン・企業団体等による出展庭園・会場修景花壇及びフェアに関する諸施設・建物等

作品評

この作品は、都市緑化フェアの会場設計であるが、本成果により花の彩りによる画一的な展示空間ではなく、隣接する湖山池の雄大なスケールに対応した印象的な風景が創出された。「鳥取らしさ」と鳥取の魅力発信という委託者の要請に対し、砂の文化を造形やディテール等に展開しつつ郷土景観を取り入れるなど、会場整備に地域資源を最大限に活用するとともに、地元の人々の様々な形での参画を促すことにより、ソフト展開も含め、市民と共に鳥取色100%の会場を作り出した。
 基本計画から実施設計までを担当したことで一貫したコンセプトを作り出し、そしてそれが賞かれた点、ならびに計画設計だけでなく、関連設計や関係企業との調整、市民協働の企画運営、PR事業への協力など、多岐にわたる総合的マネジメントを展開した点が高く評価された。
 本作品は、設計部門の作品としてそのデザイン性だけでなく、総合的な取組みも含めた社会性に対し高く評価され、最優秀賞となった。

また、「みどりのまちゾーン」では、落ち着いた林の空間「ウッドランドガーデン」、グラスと草花が競演する「スタイルガーデン」に参加者の多彩な「これからのとっとり」が表現された出展空間となっている。さらに会場の一歩奥は、「まちづくりに繋がる場」の象徴となり、鳥取の『人が「動く』』『人が「もてなす』』『人が「発信する』』をテーマに鳥取の活力を伝える協働の「緑化の輪ゾーン」とした。このゾーンの中核をなすコンセプトガーデンの一つである「よりみちガーデン」は県民市民がフェアの主役となる会場での協働実践の「場」の創出をコンセプトに企画、デザイン、施工、管理を実践するガーデンとして、公募で集まった市民で構成する「みんなで作るとっとりフェアプロジェクト」の方々を主体とした、事務局と会場設計チーム

の協働によるガーデンとなっている。会場を巡り、最後に現れるのはメインガーデンである「アースガーデン」を核とした「花の畔ゾーン」。アースガーデンでは『砂像と植物が融合する』世界でも類を見ない鳥取らしさが溢れる大地の庭を表現した。花緑と鳥取の「砂」の文化、池の畔の大らかなランドスケープと花緑のハーモニー、郷土の風景に浸るゾーンとなっている。

□おわりに

鳥取の風土・文化等の資産を活かした会場設計の元、多くの「人」の参加・参画により持続性の高い都市緑化、環境づくりに向けた意識の向上や行動に繋がる「きっかけ」となることを目指した本フェア。今後のナチュラルガーデンの展開に期待したい。



湖山池の大らかな風景を際立たせる野花の風景



鳥取市民のみなさんで作った協働の庭「よりみちガーデン」



プロジェクトチームによるパーゴラ設置



水と緑のウェルカムガーデン



出展空間のウッドランドガーデン



花で癒されるヒーリングボーダー



植物と砂像によるナチュラルガーデンエントランス



ナチュラルガーデンへと導く「多年草の回廊」



発見と学びのキッチンボーダー



ナチュラルガーデンのオアシスである「巨石と湧水」の庭